つきかげ

第　131　号
(平成30．7．20)

信　楽　寺
〒690-0052
松江市竪町88
TEL(0852)21-1589
FAX(0852)21-1590
郵便振替口座番号
01450－3－13538

追悼号“先代住職静譽信廣(内田信廣)を偲んで”

聖徳太子祭で子どもたちに熱弁する先代。手にする鉄扇は小学生の時剣道で15人抜き優勝した時の賞品であり、本人自慢の品でもあった。

盆施餓鬼法要(ぼんせがきほうよう) ご案内

平成30年8月4日(土)
午前10時より

今年初盆を迎える二十霊の仏様を皆さんでご回向しましょう。ご自身のご先祖様供養の為にも是非お参り下さい。

10時00分～11時20分　法要
11時20分～11時40分　挨拶
休憩・準備
12時00分～　お斎(昼食)

※お袈裟・お数珠をお持ちの方は携帯下さい。
※服装は普段着で結構です。
※初盆のご家庭は是非お参り下さい。
※初盆のご家庭に限り、何人でお参りかお知らせ下さい。
※同封封筒にてご回向申し込み下さい。

お盆前　信楽寺墓地　松尾町墓地　一斉清掃

8月5日(日)　午前6時　信楽寺本堂にておつとめ
午前6時半より清掃

※冷たい牛乳を用意しております。
墓地をきれいにしてご先祖様をお迎えしましょう。
掃除道具をご用意下さい。
暑い中ですが宜しくお願いします。

遷化（せんげ）から半年 経って思うこと

住職　楽誉（ぎょうよ）　広平

十年一昔と言いますが先代のアルバムを整理していますと、昔の信楽寺の風景やお檀家さんの若かりし頃の写真を見て、随分と変わってしまったと思い、一瞬時が止まった様な気が致しました。

先代が遷化してから半年が過ぎました。

今から10年前私の晋山式の時、お檀家の皆さんに多額のご寄進をお願いし、本堂の改修工事、庫裡の新築工事をさせて頂きました。

この時、先代は「お前には早いんじゃないか、住職になってお檀家さんの信頼を得て10年後ぐらいにやっても遅くはないと思うが」と苦言を呈しました。私は自分の意志を貫き内外共に境内整備をさせて頂きました。とても昔からは想像もつかない信楽寺に変わりました。これも一重に皆様方のご理解・ご協力によるものと感謝しております。

10年経ってみて、はたして今出来ただろうかと思うと自信がありません。

しかし、当時の先代の気持を考えると、慣れ親しんだ本堂・庫裡の姿、広い裏庭、大きな松が沢山生えていた境内の景色、今の私でも鮮明に思い出すことが出来るぐらいですので、先代にとって昔の庫裡を壊して建て変える事、庭を整備して狭くしたことなど、自分の思い出が無くなり、自身の体が傷つけられる様な思いを抱いていたのかも知れないと思うようになりました。

先代は昭和44年にその当時としては珍しい、鉄筋コンクリートの本堂を建立致しました。

この本堂建立は先代にとって宿願でありました。と言うのも先々先代の時代から１００年の永きに亘って信楽寺本堂が無く、庫裡の中に仮本堂がある状態であったからであります。

先々代である私の祖父は昭和12年全檀家さんの総意のもとに、本堂再建を計画し、寄付も着々と集まり、いざ再建と言う時に、太平洋戦争勃発、長男が戦死、その報告を聞いて、あまりのショックに2ヶ月後脳卒中となり、志なかばでお浄土に旅立ちます。

先代にとっては、単に本堂再建だけではない、永年に亘っての多くの方々の願い、思いがあっての建立であったのです。

昔の信楽寺　境内

昭和50年先代53歳の時、17年間勤務した県立松江工業高校教諭を退職致しました。晩年先代は、脳梗塞となり自分の言いたい事も言えなくなりました。ある日、病院に行った時の事「学校に行かないのか?」と聞こえた先代の問いかけに、学生の頃と勘違いして変な事を言い出し

たと思いましたが、後で考えてみますと、先代は国語の教員として勤めている錯覚に一瞬とらわれていた様子で、「学校の勤めに行かなくても良いのか?」と今にもバイクに乗って出勤する勢いであったことに気付かされました。盲学校勤務も含む27年間は、教職と住職の二足のわらじをはいて忙しくも、最も充実した血気盛んな時代であったと思われます。

53歳の定年を前に退職した先代は、今まで以上に信楽寺の法務に力を注いでいきました。その年に山門修理、墓地に水銀灯設置、また、この時の退職金を使って、墓地にコンクリートの敷石を何百枚と敷き、それまで雑草の多かった墓地を整備しました。そして、今でも続けている月一回の朝墓地清掃を始めました。

先代は、なぜ墓地清掃を始めようと考えたのか、実は単に墓地をきれいにしたいと言う理由だけでは有りませんでした。冬は「芋がゆ」夏は「そうめん」を〝掃除して頂いたお檀家さんと一緒の物を食べる〟それが目的だったと聞いています。その当時は、掃除の後たわいもない話をしながら外にゴザを敷いて、桜の花を見ながら、鳥の声を聞きながらいただきました。

それは、私が高校生ぐらいの出来事ですが、日曜日の朝早くから起こされるのが苦痛で仕方がなかったのであります。大学生になり、寮生活をしながらワンダーフォーゲルと言う山登りの部活をしていた私は、山に昇りながら「ああ今日は朝掃除の日だったな」「今頃みんなで芋がゆ食べているんだろうな」と妙に、良い思い出ではない筈の朝掃除の事が気になりました。

現本堂建設場所で遊ぶ7歳頃の住職（中央）

先代が朝掃除を始めた目的は皆さんと思い出に残る行事を少しでも多く共有したかったのだと思います。

今でも毎月第一の日曜日に続けております。少しでも先代の意思を引き継ぎ皆さんと共に勤めて行きたいと考えております。どうぞご参加下さい。

本堂再建も朝掃除も先代の考えの中には、「お檀家の皆様との絆を大切にしたかった。」だからこそ多くの方に慕われ、お檀家さんの為に、信楽寺の為にと行動していた事と思われます。私も少しでも先代に近づきたいと考えています。

今回先代の追悼号を作るに当たり多くの皆様のご協力を頂きました。座談会形式で皆さんに思い出話を語って頂きました。また、多くの思い出のアルバムの中から写真を整理して頂きました総代様、中島実様に感謝申し上げます。

また高木晃様から貴重な資料を提供して下さった事など、大変に有り難く、私の知らない時代の先代の事が分かり助かりました。

今年の11月3日十夜法要の折に皆さんと先代の一周忌のお勤め、供養をしたいと考えております。皆さんのお参りお待ち申し上げております。

先代を偲んで

佐々木博章

先代住職が昨年11月26日亡くなられてから、通夜・密葬・本葬・満中陰と慌ただしい日々が過ぎていきました。私は葬儀委員長を務めさせて頂き、特に本葬が無事滞りなく終えることが出来ましたことに、檀家の皆さま方のご理解ご協力によることと厚く感謝申し上げます。

先代とは祖父ニカ・父正道の二代に亘って信楽寺総代としてお寺に関わらせて頂いており、特に父は年齢も近く、相性が合ったのか親戚づきあいのようにさせて頂いていました。父はたばこ組合の理事長をしていましたが、組合の総会に何故か先代が来賓で出席されたり、父の同窓会が信楽寺で開催されたり、私の結婚式にも出席してもらいました。

平成12年に父が亡くなった時には、直ぐに駆けつけて下さり、葬儀をして頂きました。私はその時の恩返しとして、葬儀委員長を引き受けました。葬儀が終わった後、帰宅して父の仏壇に滞りなく葬儀が終了したことを報告しました。

私が、先代を知ったのは、南田町にあった盲学校の教師として、私の家の前を通っておられた時代です。私の家はたばこ屋でしたので、帰りには、たびたび「朝日」と言うたばこを買いにこられる姿をよく見かけました。その当時は、髪がふさふさで、七三分けしておられました。私の祖父が昭和39年に亡くなった時に初めて、あの方が我家の寺の住職だと気づいた次第です。

その後、父が総代をしていましたので、しばしば我家に来られていました。宴席に呼ばれたこともあり、先代と親しくなっていきました。

昭和44年　本堂新築の経過報告をする父（正道）

昭和62年には、私の長女がちょうど2歳になった頃、突然の病でなくなった時「逮夜」毎に来て拝んで頂き、涙を流しながら親身になって寄り添うように諭して頂きました。憔悴しきった家内が立ち直れたのも先代のおかげです。おかげさまで、翌年男の子が生まれ、生まれかわりとして育てていこうと思いました。

我家に先代が尋ねてこられると、その子が先代のことを「信楽寺の信ちゃん」と呼んでいました。先代はバツの悪そうな顔して、息子の頭を撫でておられた姿が今でも忘れることができません。

平成24年の五重相伝の時には、若い住職に任せてもしっかりやってくれていると安心した顔をしておられたことが印象的でした。その後、体調を崩され、入院された時に、見舞いに行くと、住職を頼むからと手を握ってこられたことが忘れられません。

先代は生前よく「人間は皆生かされて生きている。究極的には永遠なるものに生かされており、仏様の悟りとは大いなる命によって生かされていると気づく事である」と。言う法話をよくして下さいました。

私は亡くなった長女（仏様）に生かされていると思っています。今後も仏の国に往った長女と阿弥陀様に見守られながらお念仏の生活に精進していきたいと思っています。

大方丈
信廣和尚を偲んで

阪本　憲治

信廣和尚と我が父・昌雄　平成三十年五月二十五日（書出）

信廣和尚は私の父（八年前に他界）とは小学校時代の同級生同士。法事か何かで我が家に来られた時、父とよく、こんな話をされていたのを聞いたことがあります。小学校時代の話のようです。

「自分の名前は信廣（のぶひろ）だが、『しんこう』（信仰）とも読める。これは寺を継ぐということか?」と考えておられたようです。

自分（和尚）は次男の身、当時は長兄も健在、将来の事がふっと頭によぎって出た言葉だったのか分かりませんが、既に将来を予見されて仏門に入る覚悟が小学校時代からあったのではと思われます。ともあれ、私の知っている信廣和尚は和尚さんらしい和尚さんでした。又、父との関わり合いでは何か縁を感じます。

同級生と言うだけでなく、誕生日も大正10年9月14日（父）と10月11日（和尚）、で近く、父も次男に生まれながら、長男が早くに他界した為、後継ぎとして育てられ我が家を継ぎました。

筆者父（昌雄）の通夜を勤める先代

2人とも大正、昭和、平成の時代を生き、特に激動の昭和においては我々の知らない並々ならぬ苦労があったと思います。小学校卒業後は2人の道は分かれますが、和尚は学徒出陣で入隊、小笠原諸島方面に、父は工業学校を卒業後は中国東北部満州で就職、現地召集で軍に入隊。終戦は2人ともそれぞれの現地で迎え、何とか無事に帰郷しました。

父は無口な方でしたが、信廣和尚が来られると小学校時代のこと、戦中戦後のこと等2人でよく話されていたのを思い出します。今となっては、もっと話を聞いておけばという後悔の念に駆られます。

実はこの文章は標題にあるように父の祥月命日5月25日に書き出しました。しかし、2～3行書いて一向に筆が進みません。そうこうしている内に、月末となり親戚のお婆さんの訃報が入ってきました。葬儀は鹿児島、宮崎の県境に近い所。行って来ました。子供5人を育て、孫13人、ひ孫もいるお婆さん。大往生だったようです。

平成2年団体参拝の写真
（左筆者の父・右先代）

「自分だけで生きるのではない。人は生かされている。誰かの為に生きるのだ」信廣和尚の声が聞こえてきそうです。信廣和尚に実子はいませんが、我々檀信徒は皆、信廣和尚の子供です。

「人は生かされているのだ。
人は誰かの為に生きるのだ」

合　掌

温顔とお酒と真面目な話
先代住職様の思い出

赤松　英一

わが赤松家は別所氏の播州三木城落城の後、出雲に流れて住み着いた先祖から始まると伝えられています。信楽寺様の過去帳には、１６６２年に初代茶屋次右衛門に関連する最初の記載があり、以来ずっと檀家としての関係が続いてきました。

ちょうど１２０年前、祖父盛一（11代次右衛門）が青雲の志を抱いて大阪に出てからも、郷里や信楽寺とのつながりは強く、先代住職様が京都で仏教の修行をされていた頃は、時々我が家に来られていたそうです。祖父や父敬の葬儀に際しては、わざわざ松江から大阪に駆けつけて下さいました。

こうしたつながりに関しては、これまでにも姉の佳代子が『つきかげ』の第１１６号に、祖父の弟の孫にあたる園子さんが第１３０号にそれぞれ文章を寄せています。

僕自身も小学生の頃から夏休みごとに祖父に連れられて松江や境港の親戚の家に滞在していたので、信楽寺様は近しい存在でした。大人になって先代様と親しくお話しした最初は、１９６５年、大学一年生の時です。その年に亡くなった祖父の法要か何かで訪問したのでしょう。京都大学の先代総長だった平澤興さんと仏教を通して親しかったようで、大学や学問について熱く語って下さいました。

その時には自分から詳しくは話しませんでしたが、僕は大学入学直後から学生運動に身を投じ、その後も社会運動に専念して、家のことには見向きもしませんでした。再びお付き合いするようになったのは、１９８６年に父が亡くなってからです。

一人息子である僕に子供がなく、赤松の家が13代目となる僕の代で絶えるお詫びを申し上げに伺ったのですが、そのことについては責められず、僕の生き方について親身に相談に乗って下さいました。

その後は時折お伺いして、僕の現状を報告するとともに、南方諸島への戦没者慰霊供養の活動などについてお聞きしたりしました。

筆者の父（敬）と並ぶ先代

こうした時はいつもお酒がお供で、日本酒を燗で酌み交わしながら話しあい、帰りには一升瓶をお土産に戴くのが常でした。僕が50歳を前に転身してワイン用の葡萄栽培を仕事としてからは、会社のワインを持参して飲んでもらったこともあります。

いつも温かく迎えてくださる笑顔、お酒を飲みながらの真面目な話が、常に変わらぬ和尚様の姿として記憶に残っています。

最後にお会いしたのは、住職様から入院されたことをお聞きし、２０１４年7月にお見舞いに行った時です。ベッドの側から声をかけると、僕の顔を見てしっかりと頷いて下さいました。まとまったお話しは出来なかったものの、長きにわたるご厚情に直接感謝できたのは嬉しいことでした。本当にありがとうございました。

欲かくんじゃない

田平　康子

母親の勤めもあって、私と4歳上の姉は、母の実家の信楽寺で育った。「ひとりで大きんなったやな顔してから」と言う先代の声が聞こえる。

母が長女だったので、若いオジ、オバに囲まれていた。

祖母はお寺に来た人とのおしゃべりの中で「ババ子は三文下がると言いますが、私が育てました」と、話すのを聞いたこともある。

先代の姪子となる筆者とその長男を膝の上であやす先代

先代住職には「おーやすこはすごいなー」などと、さんざんからかわれた記憶が残っている。その頃盲学校の先生をしていて、私もなぜか盲学校の運動会に参加した。玉ころがしに出て走ったけど「なんで球に鈴が入っているの?」と聞いた。

私が高校生ぐらいの時、毎晩のように戦争の話、特に学徒出陣で行った小笠原の話を聞いていた。「目の前に敵がいると言う戦場ではなかったけれど、同じ頃召集された硫黄島の守りについた人は、ほとんど帰ってこなかった」という話を覚えている。

私が結婚して、3人子供を産んだ時、3人目も男の子だったので、3人女の子を産んだオバに「やっぱりダメだったわ」と電話した。「女の子が欲しかったのに」と、その話を先代住職にした時の言葉が「欲かくんじゃない」。

私も30歳を超えていたのに、何で無分別な話をしてしまったのかと思う。これ程子どもが好きで、どんなにか自分の子どもが欲しかった人の前で…、と思うと、今でもごめんなさいと言うしかない。

にもかかわらず、我が家の3人の子ども達は「お寺のおじいちゃん」に随分かわいがってもらいました。

まだまだ、色々なことを聞いてみたかった。そして「感謝の言葉を伝えたかった」と思うこの頃です。

第17回　おてつぎ信行奉仕　～年に一度は本山参り～

9月18日㈫～19日㈬浄土宗総本山知恩院で信行奉仕を致します。なんばグランド花月を楽しんで帰る行程です。どうぞ皆さんのご参加お待ちしています。

期　日	行　　程
9月18日㈫	松江駅南口 5:30発 → 京都東IC → 総本山知恩院
9月19日㈬	和順会館 9:00発 → なんばグランド花月（昼食） → めんたいパーク（買物） → 松江駅南口 19:10頃着

座談会
先代住職（内田信廣）を偲ぶ会

座談会の前に先代の位牌・遺影に参加者で合掌・念仏を称えました

中　島：皆さんご苦労様です。今日は先代住職を偲ぶ会をご案内させて頂きましたところ連休の最中にも関わりませず、ご出席を頂き誠にありがとうございました。

ご住職から、この偲ぶ会の進行役を仰せつかりました中島実でございます。不慣れではございますが、ご協力の程よろしくお願いいたします。

それでは早速ですが、浜松さんから先代との思い出話をお聞かせ頂きたいと思います。

浜　松：先代との関わりは、親父が亡くなってから、私はお寺の勤めを始めました。

子供の頃は、親父の墓掃除についてきて、境内でセミやトンボを捕ったりして遊んでいましたが、そんな時に先代から「こら、そんなものを採ったらいけんだろが」と叱られましたが、「何故捕ったらいけないか」と言うことも教えて頂きました。「トンボの背中に仏さんが付いているだろうが」と、殺生してはいけないことを教えられ、頭を撫でてもらった事などを今、思い出しています。

親父が亡くなってから、ようやくお寺勤めをするようになり「お前も大きくなったなー」と、言われたこともありました。

お盆に仏さまを拝みに来て頂く時は、お袋がいつも決まったお菓子と抹茶を出して、先代に大変喜んで頂いたことなど思い出します。

中　島：抹茶や菓子を楽しむ先代の姿が目に浮かびます。

先代が発刊された「つきかげ」は今年1月に130号になりました。年2回発行していますので、65年前の昭和28年に創刊号が発行されています。その当時の様子を笠原さんお話願いませんか。

笠　原：最初は先代が昔の庫裡の玄関を入って直ぐの所で、ロ

ウ原紙に鉄筆で書いて、ガリ版印刷をしていました。

当初は今のように発送はしないで、配れる範囲内、せいぜい250軒程度を、婦人会が協力して松江市内を配って歩きました。県外は特別な檀家さんを除いて発送はしていませんでした。

僕の所は、橋北なので家から近いこともあって、中原から鷹匠町などを配っていました。

住　職：私が記憶している範囲では、先代が作った檀家名簿があって、それを毎年コピーして、短冊状に切って張り、手間をかけて発送していたことを思い出します。

中　島：ありがとうございました。先代はお酒が好きだったと、お話を聞いた記憶がありますが、どなたかそのあたりをお願いできませんか。

高　木：ビールがお好きだったようですね。盆などにおいでの時、お勤めが終わってからの一杯はビールでした。

また先代の葬儀の時に佐々木総代が「たばこを買いに来られたお話」をされていましたが、「朝日」と言う銘柄のフィルターの所が紙だけの所をつぶしてよく吸っておられました。

森　田：私がお寺さんと縁がありましたのは、昭和62年でした。きっかけは、朝日町のある社長さんの紹介で、私の前の社長が「生前戒名を頂く」ということで、何回かお会いしたのが始まりでした。

2年後の平成元年に前の社長が亡くなりまして、先代に来て頂きました。

舅がなくなったのは、1月の寒い時期でした。私は酒が飲めなかったのですが、逮夜毎に燗酒を勧められて飲むうちに、付き合い程度は飲めるようになったことを思い出しています。

私の会社は、元の宍道湖ホテルのそばにあり、先代が近くに来られた時は、「お茶飲ましてや」と尋ねて来られました。

また、庭の大きな石を見つけられて「よい石がありますね、お寺の庭石に頂けませんか」と言われ、喜んで差し上げました。

左から佐々木、森田、小倉、多久和、高木さん

現在、本堂の前にある石と庫裡の庭にある石がその石です。

もともと私は神奈川県出身で頼る人がいなかったので、先代に大変良くして頂きお世話になりましたことに感謝しております。

中　島：あの石にはそう言ういきさつがあったのですか。先代は庭石を楽しまれる風情もあったのですね。これからはお話を思い出し眺めさせて頂きます。

先代は「お話が好きだった」と言う事を聞いたことがありますが、山田さん何かございますか。

山　田：私は先代のお陰で檀家にならせて頂きました。私の実家は浄土宗ですが、嫁いだ先は真宗でした。

主人の姉から田舎に墓を作ると言う話が出て、長男である主人は、遠いこともあり、色々と考えて墓所を信楽寺へお願いすることにしました。

墓所を作ることは了解いただいたのですが、先代に「宗派が違うのでいけないのでは」と伺いましたら「そんなことはないから内へ来い」と言われて、檀家になりました。

田舎でしたので仏壇も大きなもので、家に入らないので、家を改築して田舎から仏壇を持ってきました。先代に仏壇の開眼供養に来てもらい「真宗だったので何もありません」と言ったら「法然上人の掛け軸と、木魚だけは揃えてください」と言われ、懇ろに拝んで頂きました。

ある日、私の母からご詠歌の存在を知り「ご詠歌と言ういいものがあるそうですね」と先代に聞くと「内にもあるから入ってごせ」と言われ、直ぐに入らせて頂きました。

ですから先代は私たちの縁を結んで頂いた、大切な大切なお方でした。

また、「本山参りの旅行」では、私たちにも行けと言われ、お小遣いまで頂いて駅まで送ってもらいましたが、台風が来て汽車が不通になり、しばらく駅で待っていたら、臨時の列車が出ることになり、行くことができました。

新年会では、先代が仮装して出られる時に、カツラを付けてあげたり、着物を着せてあげたりと、楽しい新年会も思い出します。

中　島：先代は住職と言う域を超えて「人の心に寄り添う方」でしたので、それだけに多くの皆さんから、多くの檀家の皆さん方から慕われたと思いますが、そこら辺について一色さん何かございますか。

一　色：私がご縁を頂いたのは約40年前でした。最近の国会答弁のように2年3年前の事が「記憶にありません」と言われるように、40年前の事はなかなか思い出せませんが、私の家内が亡くなったのは、何の準備もない状態で突然逝ってしまいました。

自分の人生は終わったようなどうしようもない、悲しみの中で、葬式の段取りも初めてのことで、何をしたらいいのかわからない状態でしたが、近所の方から「いいお寺さんがある」と紹介して頂いたのが信楽寺でした。

左から浜松、笠原、一色、阪本さん

家内は44歳で亡くなりました。書道を嗜んでおりましたので、そのことを戒名にも取り入れて、墨の香りも豊かな戒名を頂きました。

私が何日も落ち込んでどん底の中で、先ほど中島さんがおっしゃったように「親身になって寄り添うように」言葉をかけてご指導を頂きました。

先代から「自分ひとりで生きているのではなく、生かされているんだ」と、生と死について色々とお話を頂きながら、そのお陰で酒に溺れることもなく、私の人生を大きく左右し、良い方向に導いて頂き心から感謝しています。

中　島：ありがとうございました。小倉さんはご近所と言うこ

ともあって、何かと関わりがあるのではありませんか。

小　倉：私は平成16年からです。それまでは妻が、お参りしていました。先代から「何か困ったことがあればいつでも相談に来い」と言われていました。

お盆の棚経の時には、先代の運転手として、車でお檀家回りの手伝いをしていました。それまでは笠原さんが手伝っておられました。

今回当時のお檀家を回った順番を書いたメモが出てきました。早朝ＪＲに乗って米子の檀家をお参りされ、私たちは松江駅で待って合流し、引き続いてこちらのお檀家のお参りする日もありました。

中　島：お盆の棚経の車の運転は、私も10数年させて頂きました。

高　木：一色さんも棚経の時に運転されていましたが、中島さんもでしたか。

中　島：私は最終日の15日でした。日を分けてお手伝いしていました。

一　色：私は13日でした。

中　島：何年か繰り返す内に先代に「あそこへは行かなくていいですか」と聞くと先代から「そうだった、ここもいかなくては。お前は黙っとっても連れていってごす」と言うような会話をしながら、暑い中でお檀家さん回りをしたのを覚えています。

左から中島さん、住職

小　倉：そのことは笠原さんにも言われていた。「お前は黙っとっても連れていってごすのう」とよく言っておられました。

笠　原：それは、小倉さんが隣に乗ってくれていたからできたのであって、私一人では怖いので隣に乗ってもらって助かりました。

住　職：この順番を書いたメモは、先代の字ですね。筆跡を見れば分かります。

中　島：お盆の棚経は、けっこう多くの思い出がありますね。石田さんどうですか。

石　田：私は長い事、詠唱会に入らせてもらっています。

中　島：詠唱会はいつごろ始まったのですか。

石　田：始まったんは随分前ですが、私たちが入った時は30人くらいおりました。昭和60年に私らが6人ほど入り、今残っているのは住職のお母さんと私だけになりました。

山　田：私が入らせてもらった頃は、40人くらいでした。先代の奥さんが先生で、盛大にやっておられました。

住　職：当時はＡチーム・Ｂチームみたいなのがあり、Ｃチームまであったのかなー。

笠　原：僕の母親が入っていた頃には大勢おられました。あの頃は、我々のお母さんぐらいの方がたくさんおられ、恐らく一番盛大な時だったと思います。

住　職：私が平成2年に松江に帰ってきた時も、盛大だったことを覚えています。

私が帰ってきた途端に、それまで指導に当たっていた徒子おばあちゃん（先代の奥さま）が、私にすべてを任せたのです。それまでおばあちゃんは一生懸命にやっていたと思うのですが、私が帰ったので任せたのだと思います。

笠　原：なぜやめられたのか

ねー。それにしても、住職はあれだけ檀家回りをされておられるのでなんとか、ご詠歌隊を増やすことはできんかね。

住　職：法事にご詠歌をお唱えして、私なりに努力はしているつもりですがなかなか。

山　田：今は皆さん60過ぎまで働かれますので、声をかけても難しいこともあります。

中　島：多久和さんの奥さんはどんな思い出がありますか。

多久和：私は先代とはたくさんあります。先代には大変お世話になりました。

子供が高校に入学した時には、お祝いしてもらったり、寺に呼んでもらってコーヒーをよばれたりしました。

また、私の弟が結婚する時には、父が亡くなっていたので、先代に父親代わりをしてもらいました。

息子が亡くなって13年になりますが、当時、毎日のようにお墓参りに来ますと、先代は聖徳太子堂の所に出て「また来たか」と言って、帰る時には「気を付けて帰れよ」と見送って下さいました。こんな数多くの思い出があります。

石　田：我が家を壊した時、おじいさんが毎日大事に拝んでいた仏像みたいな物があって「邪魔になるな」と思いながら、それを片付けていたら、落ちて壊れてしまいました。

これは「えらいことになった」と、先代さんに相談して、寺へ持ってきて拝んでもらうように頼んだら、先代は、ボロボロになった一つ一つの破片をテープで貼って、元の形にして拝んでくださいました。これは大した事をされたわと感謝しています。安心しました。

石　田：先代がオートバイでまくれられたことがありましたね。

住　職：あれをきっかけに危ないので、免許証を預かったのですよ。

多久和：オートバイに乗って近くの店に買い物に来られ、私に見つかった先代は「黙っとれよ、言うだないで」と言われたこともありました。

住　職：知らぬ間に自転車の籠が変形していることもよくありました。私たちの知らない間に、自転車を取り出しては、よく乗っていたようです。「わしはこけ方が上手いけん」とよく言っていました。確かに頑丈な人でした。

多久和：私の家の前で救急車が止まったことがありました。救急車が来たのに「乗らんでー、いい、いい」と言って逃げてしまい、とうとう救急車はそのまま帰っていったことがありました。「誰かなー」と思って聞いたら先代だった、と言う話もありました。

住　職：ハッハッハ、今初めて聞きました。

晩年は酸素を吸っていましたから、酸素ボンベをコロコロと引いていました。

救急車と言えば、皆美館で法事のお斎が終わり、帰ろうとした時に、酸欠状態になりひっくり返って救急車にお世話になったこともありました。

中　島：先代の暖かいお人柄に触れさせて頂き、ありがとうございました。先代への思いは尽きないと思いますが、最後にご住職から皆さんのお話を聞かれ

左から多久和、住職婦人、山田、石田さん

た感想なり、思いなりをお願いします。

住　職：今日はお忙しい中をご参加いただきまして有難うございました。

最初はどうなる事かと思っていましたが、それぞれの思い出を聞かせて頂いて、半年たって改めて思い出すことができました。私の知らないお話もたくさん聞かせて頂いて良かったなと思っています。

左から住職、浜松、笠原さん

信楽寺は、今でこそ皆さんのお陰で立派なお寺にさせて頂きましたが、松江のお寺の中でも、当時はそんなに「恵まれたお寺ではなかった」と思っています。

特に先代が継いだ時には、時代が時代だったかもしれませんが、「法事のお勤めの声を聞き付けて、借金取りが集まって来た」と言うような話も聞いています。どこまでが真実かわかりませんが、先代は7人兄弟で、私にとっての祖父母である先々代夫婦も大変だったろうと思います。

跡継ぎのはずの長男(康真氏)が、ノモンハンで戦死し、そのショックで数か月後には先々代が亡くなる、という大変な中で、先代は住職になりました。

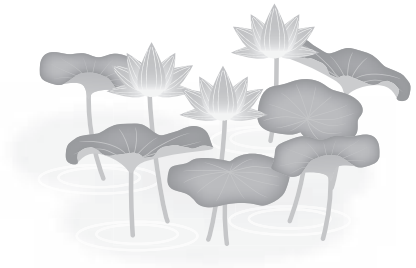
また、親代わりとして、兄弟を養っていくことになり、決して恵まれた状況で住職になったのではないというのは想像できます。

だからこそ先代は、教員をしながら、二足のわらじでこの寺をやりくりして参りました。

その後を受け継いだ私は、お寺の事だけに専念させてもらっている事を、大変に恵まれていると感謝しています。

今、「寺離れ」と世間一般に言われている状況は、ここ松江も同じであります。そんな中でも、信楽寺はお陰様で現状維持させてもらっています。いつまでこの状況が続くかは分かりませんが、恵まれた寺だと思っています。

これは一重に今聞かせて頂いた先々代、先代が、ずっと皆さんと深く関わって来たそのことが、檀家ファーストと言うか、檀家を一番に思ってきたからだと思います。改めて先代の業績に感謝すると共に、私も少しでも近づけるように精進してまいりたいと、思いながら皆さんのお話を聞かせて頂きました。皆さんお忙しい中、貴重なお話を沢山聞かせて頂きまして有難うございました。



先代の足跡をたどって

本堂新築

昭和44年、先代住職47歳の時、長年の念願であった「本堂」を再建しました。

それまでは庫裡にあった仮本堂から、当時としては目新しい鉄筋コンクリート造りの本堂（現在）となりました。

当時は境内に松や桜も多く、今以上に広々としていました。

墓地清掃

昭和50年、先代53歳の時、県立松江工業高等学校教諭を退職しました。

この時、山門を大修理し、墓地に水銀灯を設置。コンクリートの敷石を並べ、雑草の少ない墓地となり、墓地清掃を開始。墓地清掃は、現在も引き継がれ、毎月第一日曜日の早朝行っています。写真左は清掃後いただく「おかゆ」を婦人会の方が作っているところです。

新年会

昭和33年に始めた新年会。以降新年の行事として毎年開催しています。

長い歴史の中には、面白い写真も沢山あります。

五重相伝

本堂再建から10年後の昭和54年、先代57歳の時「五重相伝」を厳修致しました。

奈良「野島宣道上人」を勧誡師に迎え、厳かに執り行われました。

この後、再び五重相伝が執り行われたのは、33年後の平成24年現住職の時代であります。

昭和56年、先代59歳の時、ニューギニアへ慰霊の旅に出かけました。また、平成元年には先代の兄が戦死したノモンハンにも慰霊に行きました。

先代は終戦で戦地、小笠原諸島から無事に生還し、ひとつ間違えば「硫黄島で玉砕していてもおかしくなかった」と、よく話をしていました。

昭和32年婦人会を結成する。信楽寺の沢山の行事にご協力頂きました。
現在は“つきかげ会”と名称を変え、続けております。

昭和49年に詠唱会を結成しました。多くの変遷をへて現在も続いております。
どうぞ皆様方の入会をお待ちしております。

本山参り

毎年行っております本山参り（おてつぎ信行奉仕団）また法然上人25霊場参拝など、松江組ご寺院と共同で、各地を旅して参りました。これからも住職と旅の思い出を増やして参りましょう。

お盆棚経

お盆の棚経は有志の運転で檀家回りをしてもらいました。

平成29年度 信楽寺維持費会計

（自29年4月1日～至30年3月31日）

収入の部

単位（円）

	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	備　考
維持費収入	2,850,000	2,955,000	2,850,000	
繰越金	52,892	52,892	180,577	
合計	2,902,892	3,007,892	3,030,577	

支出の部

単位（円）

	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	備　考
課金（宗費他）	600,000	626,700	630,000	浄土宗宗費・組費など
法要行事費	300,000	250,728	270,000	盆施餓鬼・新年会
教化布教費	30,000	44,276	50,000	書籍購入費
会議費	140,000	81,978	100,000	総代会・世話人会
つきかげ印刷代	200,000	246,880	250,000	年２回印刷代
租税公課	130,000	112,800	150,000	固定資産税
火災保険	240,000	240,310	240,000	本堂・庫裡・山門・聖徳太子堂
庶務費	340,000	336,096	340,000	コピー機リース代・AEDの設置
通信費	260,000	266,695	310,000	つきかげ発送代
助成費	90,000	100,000	100,000	詠唱会・つきかげ会へ
税理士報酬代	160,000	153,832	160,000	
予備費	12,892	0	30,577	
水道光熱費	150,000	150,000	150,000	
雑費	250,000	217,020	250,000	松、樹木剪定代
次年度繰越金		180,577		
合計	2,902,892	3,007,892	3,030,577	

特別積立金会計

特別積立金	1,000,000	寄付金から充当

会計監査　平成30年6月7日

決算書類を監査し適正に処理されていることを認めます。

笠原　純 ㊞

小倉俊雄 ㊞

平成30年度年会費納入のお願い

維持費（年会費）未納のお宅は早めに納入頂きますようお願い申し上げます。

追善寄付

為　母追善	金一封	施主　三上　浩史
為　妻追善	金一封	施主　福間　庸紀
為　本人生前戒名追善	金一封	施主　小島キミエ
為　母生前戒名追善	金一封	施主　中山　桂一
為　本人生前戒名追善	金一封	施主　赤松エツ子
為　父追善	金一封	施主　平田　千晴
為　父追善	金一封	施主　高木　康治
為　父1周忌、祖母13回忌追善	金一封	施主　西川　　徹
為　父追善	金一封	施主　渡部　良夫
為　ご両親17、13回忌追善	金一封	施主　山根　健義
為　夫追善	金一封	施主　須田　ナツ
為　妻追善	金一封	施主　山根　健義
為　母1周忌追善	金一封	施主　森　　博見

平成29年寄付金総額

戒名料･その他年回法事に寄付として頂いた総額です。

一金、402万円

この寄付金は次の様に使わせて頂きました。

・墓地水くみ場修理
・九州北部豪雨救援義捐金
・先代住職密葬本葬費用
・特別積立金へ充当

ぺこり

前回「つきかげ」130号にて､総本山知恩院国宝御影堂　平成大修理にあたって仏具荘厳志納をお願いしましたところ、五軒のお檀家さんから七口の有り難いご志納がございました。

総本山知恩院へお納めさせて頂き、ご報告に替えさせて頂きます。

知恩院御影堂は来年春工事関係者から引き継ぎがあり、再来年の春落慶遷座法要が行われます。

一旦納入させて頂きましたが、引き続きお気持ちのあるお方の受付をお待ちしております。

住職にお尋ね下さい。

平成30年 後半行事予定

行　事	期　日	時　間	場　所	備　考
聖徳太子祭り	7月22日(日) ～25日(水)		聖徳太子堂	22日は午後1時半より17条憲法の写経を太子堂で行います。参加費無料どうぞ皆様お参り下さい。
聖徳太子祭おつとめ	7月24日(火)	午後7時より	聖徳太子堂	
棚経	8月1日(水) ～15日(水)			お盆にお参りします順番を同封しておりますので、ご確認下さい。
盆施餓鬼法要	8月4日(土)	午前10時	当山本堂	本つきかげ表紙に案内を掲載、盆施餓鬼供養の封筒を同封しております。
墓地一斉清掃	8月5日(日)	午前6時おつとめ 午前6時半墓地清掃	信楽寺墓地 松尾町墓地	表紙にご案内しております。ご確認下さい。
おてつぎ信行奉仕団（本山参拝）	9月18日(火) ～19日(水)	詳細は7頁ご案内しています。	総本山知恩院	年に一度の本山参拝です。今年は2日目の観光は、なんばグランド花月（吉本新喜劇）に参ります。まじめにご奉仕して頂いた後は、捧腹絶倒のお楽しみが待っています。
秋彼岸供養・永代供養法要	9月22日(土)	午後1時半	当山本堂	おつとめの後、総本山知恩院布教師・和歌山教区の榎本了示上人よりご法話をして頂きます。
出雲教区檀信徒大会	10月22日(月)	午後1時より	安来市総合文化ホール「アルテピア」	総本山知恩院執事による法話とプロの和楽器奏者（尺八と琴）によります演奏を聴いて頂きます。駅南口に松江組で大型バスを準備致します。駐車場も完備されておりますので、自家用車での来場も可能です。
十夜法要	11月3日(土)	午前10時より	当山本堂	後日、塔婆の申込みを往復ハガキにて、直接ご案内致します。今回は先代の一周忌も兼ね、皆さんと供養したいと思います。午後からの法話は以前松江月照寺に居られた石見教区宝光寺住職山本昌利上人です。
今年最後の墓地清掃・浄梵会（じょうぼんえ）	12月2日(日)	午前7時	本堂正面	浄梵会とは、捨てるに捨てられず困っているお守り・お札・お仏壇の道具類の魂を抜いて供養するおつとめです。お気軽にご相談下さい。
修正会（しゅしょうえ）（初詣（はつもうで））	平成31年元旦	午前0時より	当山本堂	平成最後の年、31年のスタートは信楽寺本堂でお念仏をいたしましょう。

基本的にどの行事にもお参り頂きたく思っております。どうぞご予定にお組み入れ下さい。

定例行事ご案内

＊御詠歌の練習＊
毎月第1・第3土曜日
午後1時半より

＊墓地清掃＊
毎月第1日曜日早朝
（1・2月はお休みします。3月は17日(日)です）

＊つきかげ会＊
毎月第2日曜日
午後1時半より

いずれの会も随時参加・見学歓迎しております。また、月によって日時・時間が多少変更する事がありますので、本堂前掲示板にてご確認下さい。

とうろう流し

8月16日（木）午後7時より

毎年恒例の仏教会主催とうろう流しを大橋南詰にて行います。
8月4日盆施餓鬼法要並びに棚経中にも申し込みを受け付けております。
費用：一霊につき500円